

2月18日～2月24日 商品検査実績

●微生物検査 228 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 158 検体

食品添加物検査	18 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関で9 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	18 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今種は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	80 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アレルギー検査	4 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	6 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア (養殖ヒラメ寄生虫)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査 (スペクトロメータ※①)	18 検体 (米 5 検体、鶏卵 4 検体、野菜 5 検体、果物 2 検体、水産 1 検体、冷蔵日配 1 検体) 実施しました。全て検出下限値 (約 20Bq/kg) 以下となりました。	
放射性物質検査 (サーベイメータ※②)	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：<sup>しゃへいたい</sup>遮蔽体無しの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定



組合員さん VOICE

組合員さんの

## 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

体が疲れるので、以前に案内があった「スマートケアブルフット」を是非案内してほしい。

## 実現しました

商品のリクエストをいただきありがとうございます。ご要望いただきました商品は、しばらく案内しておりませんでしたが、3月2回に案内できることになりました。足を前後に動かすと、6つの凸凹パーツがコロコロ回転し、踏み込むと振動します。アーチ状のフォルムで身体にフィットし、軽量でコンパクトなので、持ち運びにも便利です。お風呂上がりやリラックスタイムにぜひご利用ください。



踏み込むと振動ON!

## 今月のお知らせ 食品を食べることについてのリスクについて



食品には、生きていくために必要な栄養がありますが、栄養の他に、体に悪い影響を与える有害な成分が含まれていたり、取り扱いや保管状態によっては、腐敗や食中毒に繋がる微生物が増殖している場合もあります。このように人が食べることで、悪い影響を及ぼす食品の成分や状態を「ハザード（危害要因）」といいます。これらのハザードを摂取することで、体に悪い影響が出る可能性とその度合いを「リスク」といいます。

たとえば水や食塩は、生きていくために必要なものですが、水を短時間に大量に飲んだり、食塩も摂りすぎると体調に悪い影響を及ぼします。

危険性の高いものでも少量の摂取では、健康への影響は無いか、少なくなります。逆に危険性の低いものでも大量に摂取すれば健康へ影響を与えることになります。

ハザード



## 商品検査レポート 1月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

<b>微生物検査</b>	検査数 894	店舗新規商品検査において、菓子1商品が一般生菌数、菓子1商品が大腸菌群、菓子1商品が一般生菌数と大腸菌群にて自主基準不適合となったことから取扱いをしないこととしました。									
<b>理化学検査</b>	検査数 370	主な検査項目	食品添加物 64	簡易農薬 50	畜種判定 6	残留農薬 (外部検査機関へ依頼) 20	精米品種判定 (外部検査機関へ依頼) 3	カビ毒 4	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。		
<b>放射性物質検査</b> (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数 66	米	野菜 18	果物 17	牛乳 9	鶏卵 4	水産 5	冷蔵日記 2	飲料 1	加工食品 2	検査の結果、全て検出下限値(20Bq/kg)以下でした。
<b>放射性物質検査</b> (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数 15	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。						

※①NaI(エヌエーアイ)シンチレーションスペクトロメータ:遮蔽体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定

※②NaIシンチレーションサーベイメータ:遮蔽体無しの持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線や宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

